「日々の理科」（第 2913 号）　2022,-7,28

「鬼押出しの鍾乳石（３）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所 研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

「鬼押出し園」には、鍾乳洞も溶岩洞窟も存在しない。しかし私は「鍾乳石」を発見した。

鍾乳石を発見したのは、この建物の軒下である。かつては売店として賑わっていたが、今は営業している店はなく、ただの休憩スペースになっている。その天上コンクリートの下に、白いストローのようなものが多数ぶら下がっていた。

これがその鍾乳石である。コンクリートの元になるセメントは、もともとは石灰岩を主成分として製造される。従って、コンクリートにも石灰分が含まれていて、長年の雨水の浸透によって成分が溶け出し、少しずつ結晶化するのだ。このような「コンクリート鍾乳」は特に珍しいものではなく、少し古い建物の軒下などで普通に観察できる。

よく見ると、折れた鍾乳石の断面が、空洞（中空）になっている。これは天然の鍾乳石の形成初期の段階の構造と似ている。

大きなものは長さが 5～6cm はある。もし天然の鍾乳石なら、成長に百年以上かかる計算だが、この建物は建ってから 40 年ほどだ。コンクリート鍾乳の場合は、天然のものよりもはるかに成長が速いらしい。

軒下の床には「石筍」の基礎まで形成されていた。溶岩よしも、この「コンクリート鍾乳」のほうが面白かった。私は１本もらって観察してみたかった。